



来週の投資戦略 (3/6-10)

黒田総裁最後の一手ありや？

2023年3月5日

小松 徹

注目事項 - 見所

- 3月6日-13日、全人代 — 成長目標は5%？
- 3月7日、パウエル連邦準備理事会 (FRB) 議長発言 — インフレ対応に強い姿勢？
- 3月9 - 10日、日銀、金融政策決定会合 — 最後の黒田サプライズあり、なし？
- 3月9日、2月の米雇用統計 — 2月平均時給、前年比+4.7%？

株式市場見通し

来週のがが国の株式市場は窓を開けて高く始まろう。先週金曜日の米国の主要株価指数全面高を受けるためだ。テクニカル的にも、先週金曜日は中期・長期の移動平均線を上抜けたので、買い安心感もあろう。問題は、その流れが週央以降に止まらないかだ。注意したいのは、米国火曜日にパウエル連邦準備理事会 (FRB) 議長の議会証言がある。インフレ対応に強い姿勢を示すと予想されるが、「デイスインフレ」の過程をどう説明するか。木・金曜日に日銀の金融政策決定会合がある。黒田総裁にとって最後の会合になるので、サプライズで終わるかもしれないとの警戒感もある。

最近「ノーランディング」という言葉をよく聞く。金融当局が長期間景気抑制的な政策を推進するが、経済成長が持続し、インフレも同時進行するという。バークレイズのストラテジストが言い始めたらしい。2月中旬ならば、そうかとも思ったが、その後米国で強い労働市場に加えて、インフレ率の再上昇という指標も出てきたため、FRBの金融政策が予想以上に長く引き締められる可能性も出てきた。だが、先週末の米国株式市場の動向からはこの言葉の信者が増えているようにも思える。

ところで、先々週外国人投資家のがが国の現物市場での買い越しが止まった。年金基金の売り越しは続いていたので、誰が買い越したのかと見れば、証券会社だった。ただし、彼らは先物市場である程度の額を売り越していた。その中で、割安銘柄への投資が人気化したので、その主導者が明らかになったわけだ。特に3月権利の高配当株は権利が確定する数週間前に株価が高値を付け、急落する可能性もあるので注意したい。ただ、これは長期投資家にはあまり関係ない話だが。

最後に、もう一度。来週のがが国の市場参加者は日銀の黒田総裁が最後にどんなサプライズを用意しているか、あるいは現状のまま新総裁と新体制へ引き継ぐか、に大変注目している。あれば、どの市場も混乱するだろう。なお、KPAの「ノーランディング」に対する素朴な疑問は、FRBはどこまで金利を引き上げるか。短期金利が5%を大きく超えれば、株式の魅力は低下するが、それをどう評価するか。米国S&P500の予想株価収益率は20倍になっており、過去平均値を大きく上回っている。KPAでは先行き米国経済の減速としつこいインフレ高止まりを想定している。

KPAの投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、来期増益株	高PB低位株、高PE新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。